

日中笹川医学協力プロジェクト  
2014年度短期診療技術・技能研修  
腹腔鏡

2014年7月20日(日)～8月2日(土)  
長沙・中南大学湘雅医学院附属二院

# 腹腔鏡技術研修日程表

- \* 7月20日(日) 受講生受付
- \* 7月21日(月) 開講式
  - ・日比紀文教授講演  
(北里大学北里研究所病院炎症性疾患腸疾患先進治療センター長)
  - ・小倉直人先生講演  
(北里東病院 外科講師)
- \* 7月22日(火)-8月1日(金)  
基本技能訓練、講座、手術実演、質疑応答
- \* 8月1日(金)午後 研修評価・総括・認定書授与

# 開講式

周智広院長 →  
の挨拶

(右から)黄江生書記、周智広院長、李忠金  
秘書長、李永国教授、徐迅迪先生 ↓



受講生たち(日本財団のお揃いのポロシャツを着て)



中日笹川医学合作项目腹腔镜实用技术骨干人才培训班

宮毅  
湘雅病院  
外科医師



李永国  
湖南旺旺病院  
院長・教授  
(笹川1期生)

周智広  
湘雅病院  
院長・教授  
(内分科  
糖尿病)

黄江生  
湘雅病院  
書記・  
教授

王群偉  
湘雅病院  
外科教授

徐迅迪  
湘雅病院  
外科医師  
(笹川生21  
期生)





談笑している様子



開講式前の様子



研修が行われた教室



開講式前の様子  
小倉先生、日比先生

## 受講生紹介



山西省陽曲縣  
人民医院  
乔海强

遼寧省  
新民市人民医院  
赵庆忠

黑龍江省海倫市  
人民医院  
斐广平

黑龍江省龍江縣  
第一人民医院  
申光辉







西安市  
長安医院  
陈怡

西安市阎良区  
人民医院  
封平

吉林省琿春市  
人民医院  
林成杰

吉林省農安縣  
人民医院  
韩喜久



山西省清徐县  
人民医院  
徐普斌



日比先生の講義



日比先生に質問する  
周智広院長





日比先生に質問する  
黄江生書記・教授



日比先生に質問する  
李永国教授



日比先生に質問する  
受講生



ノートをとる受講生



湖南旺旺病院院長  
李永国教授の講義

湘雅病院  
微創外科  
周鈞先生の講義







小倉先生の講義



スライドの写真を撮る  
湘雅医院の先生



スライドの写真を撮る  
湘雅医院の先生



講義終了後も話が続く



動物腹腔鏡実験室

23F	科教楼 SCIENCE AND EDUCAT
24F-25F	实验动物中心
23F	动物腔镜手术室
21F-22F	医学实验研究中心
20F	中南大学血脂与动脉粥样硬化
19F	中南大学代谢综合征研



湘雅病院・宮毅先生の説明を聞く日比先生





# 中日笹川医学合作项目腹腔镜实用技术

国家卫生部内镜专业  
MINING CENTER OF LAPAROSCOPY AND ENDOSCOPY GENERAL SURGERY OF NATIONAL MINISTRY OF HEALTH  
培训基地

良好的医疗环境，让我们共同维护  
**探视须知**  
一、探视病人，包括手术病人，只能在病房一位陪护人员，陪护人员要持陪护证出入。  
二、探视时间：上午08:00-下午06:00为病人探视时间，节假日一切探视。  
三、探视时间：18:00-20:00为陪护探视时间。  
四、探视时间：21:00-22:00为陪护探视时间。  
五、探视期间，探视者应遵守医院各项规章制度，不得大声喧哗，不得吸烟，不得随地吐痰，不得乱扔垃圾，探视者如不配合，保安有权制止探视者探视。  
六、禁止探视病人进入病房。  
七、禁止探视病人进入病房。  
八、手术病人，包括手术病人，只能在病房一位陪护人员，其他人不得进入病房。  
九、为了您及家人的健康和安宁，请在探视期间以上规定。  
敬告外科中心  
2012年5月

教授一行来我院讲学！  
热烈欢迎日比纪文



## 2014 日中笹川医学協力プロジェクト

### 腹腔鏡実用技術研修報告

2014年7月20日から2014年8月2日の期間、日中笹川医学協力プロジェクト腹腔鏡実用技術研修が中南大学湘雅二医院にて実施され、周到な準備により今回のプログラムが終了した。今回の研修状況を報告し、2015年日中笹川医学協力プロジェクトに向けて更なる調整を行う。:

#### 1、準備

項目	状況	2015年プログラム
受講生の召集	衛生計画委員国際司が通知し、召集する	2014年と同じ
運営	微創外科センター	2014年と同じ
教具	開講一週間前に見直し、各科教具を完成させた。	2014年と同じ
教材	開講一週間前に見直し、完成させた。	教具を基に、映像資料及び教科書を改訂したい。
講師陣	1ヶ月前に講義日程を作成し、担当講師が事前に準備を行った。	予備講義を実施し、受講生のニーズを知る。必要であれば外部の専門家を招き授業を受け持ってもらおう。
総括：可能であれば開講2ヶ月前に受講生と連絡をとり、調査を行った上で研修内容及びスケジュールを調整する。開講1ヶ月前に具体的な研修内容を決定すれば、より受講生のニーズに対応でき、研修効果が高まると思う。		

#### 2、内容

項目	状況	2015年プログラム
基礎理論	「腹腔鏡実用技術」というテーマに沿って、胃腸・肝胆・乳甲腔鏡別に講義を行った。(日本の医師との) 国際的な交流もでき、良い効果を得られた。	引き続き内容を充実させ、臨床の困難な点について、深く分析・交流を図る。
機械手術トレーニング	一日半、機械を使用して手術トレーニングを行った。	本プログラムは引き続き実施し、強化する。
モニター手術トレーニング	一日かけて「手と手による」モニター手術トレーニングを行った。	本プログラムと機械手術トレーニングを同時進行する。
動物手術	教師の指導で、腹腔鏡の胆嚢切除・脾臓切除・胃空吻合・直腸切除吻合・肝葉切除等の手術を行う。手術設備を十分に活用し、受講生の反応は良かった。本プログラムの特色である。	動物を教材として更に進んだ手術を行う。



手術参観	4日間半の手術参観・相互学習を行った。手術に参加した受講者もいた。良い成果を得た。	術中での術者とのやりとりを活発にし、解説の充実を図る。
手術の実践	受講者のレベルの差があり、実践した受講生はわずかだった。	手術の安全を考慮しながら、受講生のレベルに応じて、全受講生が手術の実践を行えるようにする。
総括：	より良い研修を行うために、開講2ヶ月前に受入れ側と受講生が <b>直接話し合い</b> 、受講生の腹腔鏡基礎知識、レベル及び研修目的を理解し、レベルに応じて研修内容、構成、スケジュールを調整し、対応できるように手配する。	

### 3、PR活動

項目	状況	分析
開講中	講義や手術参観で資料を配布し、微創外科センターの最先端の取り組みについて紹介した。	受講生に、実用性が高い腹腔鏡手術や手術の処理について更に関心を持ってもらい、最先端医療について一般的な理解をしてもらう。
開講後	連絡をとり、長期的な関係を構築する	「微信」の受講生グループを作り、長期的に連絡をとり合い、様々な病気の処置について指導ができる。
長期的な宣伝	—	様々な方法や研修を通して、微創外科センターとの関係を強化し、学術レベルの窓口や機会を作る。研修班の基層病院の医師が研修及び臨床について質疑応答ができるルートを作る。
総括	毎回の研修を成功させ、日中笹川医学協カプロジェクトのブランド力を上げ、実用技術を最高レベルで、基層病院の医師に伝えることは、真の公的サービスである。	

### 4、協力方式

項目	状況	分析
パートナー	笹川同学会が受講生の所属機関との調整を行い、運営費を負担した。 微創外科センターが研修の手配を行った。	2013年にならって、変更しなかった。今後は研修手配の段取りをよくし、ミスやコストを減らし効率を上げたい。
総括	手順を整え、レベルを維持しながらコストを減らし、効率を上げる。来年の研修は段取りよく運営したい。	

### 5、授業の工夫

項目	状況	経験

状況	基礎研修と臨床実習の兼ね合い	受講生は基礎研修では、集中力が途切れたところが見受けられた。基礎研修は重要であるので、今後は関心を持たせるような工夫をしたい。臨床学習はここでは述べない。
総括	研修の中で、いかに個人の要求を取り入れるかが大変難しい。個人差が大きいので、今回は個別指導も検討している。模索しながら研修を更に充実させたい。	

## 6、受講生のアンケート

	研修後のアンケート 10 部のうち、7 部回収、他は問い合わせ中。	
項目	状況	分析
所属	二級甲医院：7名 三級乙医院：3名	腹腔鏡導入の状況にかなりの差がある。一部の医院は基本的に手つかずの状態、ある医院は三級甲医院と同じ規模を有する。
職務	助教1名、講師4名、准教授2名、教授3名	腹腔鏡医師は若年化の傾向がある。
腔鏡手術の状況	月に5件以下：2名 月に5件～10件：4名 月に20件以上：1件	受講者の基礎レベルに差がある。研修のニーズはかなり多い。
手術の実績	LC+LA：4名 LC+LA 及び結直腸腫瘍、ヘルニア：3名	1. 未経験の受講生に対し、基本手術である LC と LA について腔鏡を講義の主要内容にした。 2. LC と LA を除く、腹腔鏡手術の延長であるヘルニア、結直腸腫瘍、胆道、腹腔鏡胃癌、肝葉切除について、基層医院の受講生に推進するのは現時点では適切ではない。 3. 受講者は虫垂の腔鏡切除及び甲状腺手術に大変関心を示した。 受講生から、一般的な病気であるが手術が複雑なケースは、大変関心があると感想が寄せられた。 これは研修プログラムが目指しているところである。
研修への要望	動物実験＋臨床手術の実践	基礎理論＋トレーニング＋実践を研修プログラムとして構成している。受講生の調査によるとほぼ全員が動物実験と臨床手術にもっと時間と労力を割いてほしいと考え



		<p>ており、基礎理論と基礎トレーニングを希望していないことが分かった。ただ、基礎研修は非常に重要であるので、今後は以下の点を考慮したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講者に基礎不足を認識させる。</li> <li>2. 興味を持たせながら基礎研修を受講してもらう。</li> <li>3. 基礎研修による成果を認識させる。</li> </ol> <p>動物実験と臨床手術は受講生の要望であるが、我々は基礎研修を徹底したい。</p>
成果（アンケートより）	動物実験、専門講座、手術デモンストラクション、機械手術トレーニング、モニター手術トレーニング	基礎トレーニングの時間が足りず、動物実験と臨床手術の比重が大きかった。受講生のニーズに沿いながら、全体的なスケジュールを調整する必要がある。
通常業務から離れて研修する期間（アンケートより）	1～2週間が妥当	基層医院が受入れ可能な限度がある。今後はこれを参考にしたい。
意見	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機械トレーニング研修を標準化してほしい</li> <li>2. より多くの手術の機会を設けてほしい</li> <li>3. より多くの手術映像資料（コピー）を提供してほしい</li> </ol>	<p>現在国内外で腹腔鏡手術の公式な基準が設定されていない。講師は自分の操作方法や自分が会得したものを受講生に教えている状況である。今後はキャリアのある指導医師を増やし、受講生の要求に応じたい。受講生による手術参加は医療安全上リスクがあるが、より多くの機会を設け、受講生の希望に応じたい。手術映像資料は著作権の問題もあるが可能な限り提供したい。</p>

今回の二週間の研修は、不足な点はあったものの、非常に実りの多いプログラムになった。この研修プログラムを提供していただいている笹川同学会及び関係者に感謝を述べたい。来年度は更に強化し、受講生のニーズに対応できるような充実したプログラムにしてきたい。

（中南大学中南大学湘雅二医院微創外科センター）

## 2014 中日笹川医学合作项目

### 腹腔镜实用技术骨干人才培训班总结

2014 年 7 月 20 日至 2014 年 8 月 2 日, 中日笹川医学合作项目腹腔镜实用技术骨干人才培训班在中南大学湘雅二医院举行, 经各方积极准备和精心组织, 本期学习班业已结束, 现将本期培训班情况予以总结, 并将在 2015 中日笹川医学合作项目中进行调整:

#### 1、组织预备

项目	本次情况	2015 项目
学员召集	卫计委国际司通知召集	同 2014
会务组织	微创外科中心负责	同 2014
教具准备	开班前一周前清点调试完善各科目教具	同 2014
教材准备	开班前一周内清点完善	依托教具, 进一步完善影音文件及书面课件
人员准备	提前 1 个月安排好课表, 任课教师提前备课准备	试行预讲制度, 由微创外科中心组织, 根据需要, 必要时请外单位专家参与授课

经验总结: 如果情况允许, 在今后的同模式培训中, 能在培训开始前 2 个月和学员取得联系, 根据调查反馈调整办班内容及周期, 于开班前 1 个月根据学员调查反馈情况确定具体培训方案, 由于针对性强, 培训效果会更好。

#### 2、办班内容

项目	本次情况	2015 项目
理论授课	按照“腹腔镜实用技术”的题目进行胃肠、肝胆、乳甲腔镜的分别授课, 加入国际交流内容, 效果良好	继续增加互动内容, 对于临床难点进行深入分析沟通
机械模拟	一天半时间进行机械模拟	本项目将继续存在并强化
电子模拟	1 天时间进行“手把手”电子手术模拟	本项目和机械模拟同步进行
动物手术	在带教老师指导下完成腹腔镜下胆囊切除、脾脏切除、胃空吻合、直肠切除吻合、肝叶切除等手术, 充分利用了手术资源, 学员反馈良好, 成为本培训班特色	争取进一步完善动物手术教材
手术观摩	四天半时间进行手术观摩、互动, 有学员上台参与手术, 效果良好	加强术中和术者互动交流, 提升解说水准
手术实践	由于学员水平参差, 仅有部分学员上台	着眼手术安全, 根据学员水平安排, 争取所有学员均有参加手术实践机会



经验总结	为保证办班质量，争取在开班前 2 个月由承办方和学员进行 <b>直接交流</b> ，了解学员的腹腔镜基础和层次，培训的目的，根据培训层次安排培训内容，调整培训结构和计划，并在互动部分中进行个性化安排。
------	--

### 3、宣传随访

项目	本次情况	分析
办班中	授课中、手术观摩过程中及发放宣传资料、介绍推广微创的前沿进展	学员更加关注实用性强的复杂腹腔镜手术和开放手术的处理，对前沿只是要求一般性了解
办班后	随访并建立长期联系	建立学员微信群，长期沟通，对于常见病和复杂病的处置起到指导作用
长期宣传	/	利用各种媒介，把培训作为扩大微创影响、构建学术平台的窗口和机会，利用各种形式加强交流，把培训班办成基层医院医生在培训和临床答疑方面有效途径。
经验总结	办好每一期培训班，做好笹川培训的品牌效应，把最实用的技术最大程度的送到基层骨干医生手上，才是真正为群众服务。	

### 4、合作模式

项目	本次情况	分析
本次伙伴	笹川同学会，负责学员组织、会务费用 微创中心负责会务安排	沿袭 2013 办班模式未作改变，在今后办班模式上尽可能把程序流程化，减少遗漏，降低成本，提高效率。
经验总结	流程化是减少成本，提高效率，保证质量的最好办法，争取明年办班能够流程化运作	

### 5、拓展空间

项目	本次情况	经验
本次情况	基础培训和临床学习兼顾	学员对于基础培训出现兴趣疲劳，但是基础培训是培训项目的重中之重，今后培训工作应该在增加基础培训的趣味性和新颖性上下功夫，降低这种疲劳会取得更好效果。临床学习不赘述。
经验总结	在培训过程中发现，如何迎合个体化培训要求仍是我们很难做到的，在这种小规模化的培训过程中，仍然存在较大的个体差异，尝试在下期培训班中专门安排个体化培训时间，可能在这方面的探索，对于培训本身具有更大拓展空间。	

### 6、学员反馈

	本教学反馈表发放 10 份，回收 7 份，其他为询问反馈	
项目	反馈情况	分析

来源	7 名来自二甲医院，3 名来自三乙医院	腹腔镜开展情况差别很大，有部分医院基本上处于空白状态，有些医院接近三级甲等医院规模
职称	医师 1，主治医师 4，副主任医师 2，主任医师 3	腔镜医师有年轻化趋势
腔镜手术开展情况	5 台/月以下 2, ,5-10 台/月 4, 20 台以上/月 1	学员培训基础差别很大，培训有巨大市场
已开展手术	LC+LA 4, LC+LA 以及结直肠肿瘤、疝 3	<p>1 LC 和 LA 是腔镜的基本手术，对于未开展的学员是主要的学习内容；</p> <p>2 除了 LC 和 LA 以外，腹腔镜手术的进一步延伸为疝气、结直肠肿瘤、胆道，腹腔镜胃癌、肝叶切除暂不适宜基层医院推广；</p> <p>3 学员对于复杂阑尾的腔镜切除以及腔镜甲状腺手术表现出浓厚兴趣，在对于本培训层次的医生而言，处理常见病常见手术的复杂情况可能更加吸引眼球，也是本层次培训项目的方向。</p>
培训需求	动物实验+临床手术实践	我们的模式为理论+模拟+实践，而学员的调查反馈信息几乎全部希望在动物实验和临床手术实践上多投入时间和精力。在沟通过程中，我们发现基础理论和基础模拟并不理想，所以我们认为我们预定的培训模式是必须的，但应该在今后的培训工作中做到以下几点：1 让学员认识到基础的不足；2 让学员有足够的兴趣和耐心完成基础培训；3 让学员在培训中认为通过基础培训有明显收获。动物实验和临床手术实践是学员较为满意的部分，我们仍需努力加强，争取更加规范。
收获（询问）	动物模拟，专题讲座，手术演示明显；机械模拟，电子模拟次之	说明我们在基础模拟上投入力量不够，在动物模拟和临床手术实践方面安排较多，尽管迎合了学员需求，但是仍需更加全面系统的调整培训流程。
脱产培训周期（询问）	1-2 周为宜	这个培训时间是基层医院可以接受的限度，在今后同层次微创培训中，可参考此周期。
建议	1 机械模拟培训内容倾向于规范标准化动作；	目前国内外尚没有腔镜手术的公认标准化操作规范，培训老师只能把



	<p>2 争取更多上手术台机会； 3 提供更多手术影像资料拷贝</p>	<p>自己的操作心得和学员共享，今后培训将在基础培训中增加高年资师资投入以满足学员要求；短期培训提供学员上台机会对于医疗安全存在一定隐患，我们努力争取更多机会满足学员要求；手术影像资料涉及知识产权，我们尽最大可能共享。</p>
--	---	---

综上，经过两期的培训工作，培训项目已经较为成熟，但仍然存在诸多不足之处，我们感谢对此培训项目提供支持的笹川同学会和全体工作人员，在新年度的培训工作中不断加强薄弱环节，调整培训工作思路，尽可能满足学员要求，争取在 2015 年度培训项目中表现的更加成熟。

（中南大学湘雅二医院微创外科中心）

日中笹川医学協力プロジェクト  
2014年度短期診療技術・技能研修  
産科救急

---

2014年7月13日(日)～7月19日(土)  
北京協和医院



# 産科救急研修日程表

- 7月13日(日)受講生受付
- 7月14日(月)午前 開講式
- 7月14日(月)午後-18日(金)午前  
回診、講座、質疑応答
- 7月18日(金)午後 研修認定書授与

星合先生と第一グループ記念撮影

孫先生

星合先生





## 星合先生と第二グループ記念撮影





## 星合先生と第三グループ記念撮影



## 星合先生と第四グループ記念撮影





星合先生と研修生集合撮影





## 講義全貌



日中笹川医学協力プロジェクト  
2014年度短期診療技術・技能研修  
産科救急

---

2014年7月13日(日)～7月19日(土)  
北京協和医院



# 産科救急研修日程表

- 7月13日(日) 受講生受付
- 7月14日(月) 午前 開講式
- 7月14日(月) 午後-18日(金) 午前  
回診、講座、質疑応答
- 7月18日(金) 午後 研修認定書授与



星合先生と第一グループ記念撮影

孫先生

星合先生



## 星合先生と第二グループ記念撮影





## 星合先生と第三グループ記念撮影





## 星合先生と第四グループ記念撮影



星合先生と研修生集合撮影





## 講義全貌



## 講 義 全 貌







星合先生熱心に研修生たちと懇談



研修生たち喜んで日本財団ロゴ入りのシャツ見せてくださった

# 日中笹川医学協カプロジェクト 産婦人科救急技術研修報告書

北京協和医院 孫大為（第 10 期生）

北京協和医院産婦人科が今回の研修を担当し、2014年7月13日から19日まで北京協和医院で研修を行った。参加者は全て基層貧困地区の産婦人科の医師で、新疆ウイグル自治区、青海省、雲南省等10の辺境の省から、総計20名が参加した(名簿参照)。

研修は毎日、講義と臨床を組み合わせで行った。講師は当院の副教授以上の医師が担当し、理論は32コマ、臨床実習は14コマであった。内容は、産婦人科救急におけるすべての疾病の診断と治療を網羅し、当院、教師、受講生の協力と努力の下、円満に終了した。

1. 事前に受講生とコミュニケーションを取り、研修における基本的な需要を押さえた上で講義内容に調整を加えた。昨年の研修は理論の内容が多かったが、受講生の希望により、臨床実習のコマ数を増やし、昨年の10コマから14コマに増加した。

2. 臨床実習においては、5人を一組とし、経験ある資質の高い医師は手を取って教え、受講生の臨床技能を高めた。受講生は臨床実習での収穫が非常に多く、非常に多くの具体的知識、技能を学んだ。

3. 受講生から、協和医院の医師に基層医院での巡回講座を行ってほしいとの希望があった。



# 中日笹川医学合作项目妇产科急诊技术培训班总结

北京协和医院 孙大为（第 10 期生）

由北京协和医院妇产科承办的本次培训班，自 2014 年 7 月 13-19 日，在北京协和医院举办。参加者均为基层边远贫困地区医院妇产科医生，分别来自新疆、青海、云南等 10 边远省份，共 20 名（名单附后）。培训采用全天授课及临床教学，教师由本院副教授以上的医生担当，理论授课 32 学时，临床带教 14 课时，内容涵盖妇产科急诊所有的疾病的诊断和治疗，在医院、教师、学员的共同努力下，如期圆满完成。

1. 事先学员进行了沟通，了解到学院的基本需求后，对授课内容进行调整。去年培训时理论内容偏多，根据学员的要求，今年增加了临床带教的比重，由去年的 10 个课时增加到 14 个课时。
- 2、 临床带教时采用 5 人一个小组，由资深的医生手把手教学，提高了学员们的临床技能，学员普遍反映临床带教收获很大，学到很多具体的实用的知识和技能。
- 3、 学员希望协和医院的教师能到基层进行巡回讲座。

日中笹川医学協力プロジェクト  
2014年度短期診療技術・技能研修  
腹腔鏡

2014年7月20日(日)～8月2日(土)  
長沙・中南大学湘雅医学院附属二院



# 腹腔鏡技術研修日程表

- \* 7月20日(日) 受講生受付
- \* 7月21日(月) 開講式
  - ・日比紀文教授講演  
(北里大学北里研究所病院炎症性疾患腸疾患先進治療センター長)
  - ・小倉直人先生講演  
(北里東病院 外科講師)
- \* 7月22日(火)-8月1日(金)  
基本技能訓練、講座、手術実演、質疑応答
- \* 8月1日(金)午後 研修評価・総括・認定書授与

# 開講式

周智広院長 →  
の挨拶

(右から)黄江生書記、周智広院長、李忠金  
秘書長、李永国教授、徐迅迪先生 ↓



受講生たち(日本財団のお揃いのポロシャツを着て)



中日笹川医学合作项目腹腔镜实用技术骨干人才培训班

宮毅  
湘雅病院  
外科医師



李永国  
湖南旺旺病院  
院長・教授  
(笹川1期生)

周智広  
湘雅病院  
院長・教授  
(内分科  
糖尿病)

黄江生  
湘雅病院  
書記・  
教授

王群偉  
湘雅病院  
外科教授

徐迅迪  
湘雅病院  
外科医師  
(笹川生21  
期生)





談笑している様子



開講式前の様子



研修が行われた教室



開講式前の様子  
小倉先生、日比先生

## 受講生紹介



山西省陽曲縣  
人民醫院  
喬海強

遼寧省  
新民市人民醫院  
趙慶忠

黑龍江省海倫市  
人民醫院  
斐廣平

黑龍江省龍江縣  
第一人民醫院  
申光輝







西安市  
長安医院  
陈怡

西安市阎良区  
人民医院  
封平

吉林省琿春市  
人民医院  
林成杰

吉林省農安縣  
人民医院  
韩喜久



山西省清徐县  
人民医院  
徐普斌



日比先生の講義



日比先生に質問する  
周智広院長





日比先生に質問する  
黄江生書記・教授



日比先生に質問する  
李永国教授



日比先生に質問する  
受講生



ノートをとる受講生



湖南旺旺病院院長  
李永国教授の講義

湘雅病院  
微創外科  
周鈞先生の講義







小倉先生の講義



スライドの写真を撮る  
湘雅医院の先生



スライドの写真を撮る  
湘雅医院の先生



講義終了後も話が続く



動物腹腔鏡実験室

23F	科教楼 SCIENCE AND EDUCAT
24F-25F	实验动物中心
23F	动物腔镜手术室
21F-22F	医学实验研究中心
20F	中南大学血脂与动脉粥样硬化
19F	中南大学代谢综合征研



湘雅病院・宮毅先生の説明を聞く日比先生





# 中日笹川医学合作项目腹腔镜实用技术

国家卫生部内镜专业  
MINING CENTER OF LAPAROSCOPY AND ENDOSCOPY GENERAL SURGERY OF NATIONAL MINISTRY OF HEALTH  
普通外科培训基地

良好的医疗环境，让我们共同维护  
**探视须知**  
一、每位病人，包括手术病人，只准进病房一位陪护人员，陪护人员要持陪护证。  
二、陪护证由上午8:00至下午6:00有效，逾期一切作废。  
三、探视时间：18:00-20:00(30分钟)  
探视：21:00(30分钟)  
四、家属探视，探视室由本院保卫科和保安人员负责和保卫，非探视室家属探视，不得进入病房，探视者如不配合，保安有权制止探视者探视。  
五、禁止探视病人室内。  
六、禁止携带宠物入内。  
七、手术病人，包括术前及术后探视，仅限一位家属探视，其他人禁止入内。  
八、为了您及家人的健康和安宁，请在探视室中以上规定。  
院外科中心  
2012年3月

教授一行来我院讲学！  
热烈欢迎日比纪文



## 2014 日中笹川医学協力プロジェクト

### 腹腔鏡実用技術研修報告

2014年7月20日から2014年8月2日の期間、日中笹川医学協力プロジェクト腹腔鏡実用技術研修が中南大学湘雅二医院にて実施され、周到な準備により今回のプログラムが終了した。今回の研修状況を報告し、2015年日中笹川医学協力プロジェクトに向けて更なる調整を行う。:

#### 1、準備

項目	状況	2015年プログラム
受講生の召集	衛生計画委員国際司が通知し、召集する	2014年と同じ
運営	微創外科センター	2014年と同じ
教具	開講一週間前に見直し、各科教具を完成させた。	2014年と同じ
教材	開講一週間前に見直し、完成させた。	教具を基に、映像資料及び教科書を改訂したい。
講師陣	1ヶ月前に講義日程を作成し、担当講師が事前に準備を行った。	予備講義を実施し、受講生のニーズを知る。必要であれば外部の専門家を招き授業を受け持ってもらおう。
総括：可能であれば開講2ヶ月前に受講生と連絡をとり、調査を行った上で研修内容及びスケジュールを調整する。開講1ヶ月前に具体的な研修内容を決定すれば、より受講生のニーズに対応でき、研修効果が高まると思う。		

#### 2、内容

項目	状況	2015年プログラム
基礎理論	「腹腔鏡実用技術」というテーマに沿って、胃腸・肝胆・乳甲腔鏡別に講義を行った。(日本の医師との) 国際的な交流もでき、良い効果を得られた。	引き続き内容を充実させ、臨床の困難な点について、深く分析・交流を図る。
機械手術トレーニング	一日半、機械を使用して手術トレーニングを行った。	本プログラムは引き続き実施し、強化する。
モニター手術トレーニング	一日かけて「手と手による」モニター手術トレーニングを行った。	本プログラムと機械手術トレーニングを同時進行する。
動物手術	教師の指導で、腹腔鏡の胆嚢切除・脾臓切除・胃空吻合・直腸切除吻合・肝葉切除等の手術を行う。手術設備を十分に活用し、受講生の反応は良かった。本プログラムの特色である。	動物を教材として更に進んだ手術を行う。



手術参観	4日間半の手術参観・相互学習を行った。手術に参加した受講者もいた。良い成果を得た。	術中での術者とのやりとりを活発にし、解説の充実を図る。
手術の実践	受講者のレベルの差があり、実践した受講生はわずかだった。	手術の安全を考慮しながら、受講生のレベルに応じて、全受講生が手術の実践を行えるようにする。
総括：	より良い研修を行うために、開講2ヶ月前に受入れ側と受講生が <b>直接話し合い</b> 、受講生の腹腔鏡基礎知識、レベル及び研修目的を理解し、レベルに応じて研修内容、構成、スケジュールを調整し、対応できるように手配する。	

### 3、PR活動

項目	状況	分析
開講中	講義や手術参観で資料を配布し、微創外科センターの最先端の取り組みについて紹介した。	受講生に、実用性が高い腹腔鏡手術や手術の処理について更に関心を持ってもらい、最先端医療について一般的な理解をしてもらう。
開講後	連絡をとり、長期的な関係を構築する	「微信」の受講生グループを作り、長期的に連絡をとり合い、様々な病気の処置について指導ができる。
長期的な宣伝	—	様々な方法や研修を通して、微創外科センターとの関係を強化し、学術レベルの窓口や機会を作る。研修班の基層病院の医師が研修及び臨床について質疑応答ができるルートを作る。
総括	毎回の研修を成功させ、日中笹川医学協カプロジェクトのブランド力を上げ、実用技術を最高レベルで、基層病院の医師に伝えることは、真の公的サービスである。	

### 4、協力方式

項目	状況	分析
パートナー	笹川同学会が受講生の所属機関との調整を行い、運営費を負担した。 微創外科センターが研修の手配を行った。	2013年にならって、変更しなかった。今後は研修手配の段取りをよくし、ミスやコストを減らし効率を上げたい。
総括	手順を整え、レベルを維持しながらコストを減らし、効率を上げる。来年の研修は段取りよく運営したい。	

### 5、授業の工夫

項目	状況	経験
----	----	----

状況	基礎研修と臨床実習の兼ね合い	受講生は基礎研修では、集中力が途切れたところが見受けられた。基礎研修は重要であるので、今後は関心を持たせるような工夫をしたい。臨床学習はここでは述べない。
総括	研修の中で、いかに個人の要求を取り入れるかが大変難しい。個人差が大きいので、今回は個別指導も検討している。模索しながら研修を更に充実させたい。	

## 6、受講生のアンケート

	研修後のアンケート 10 部のうち、7 部回収、他は問い合わせ中。	
項目	状況	分析
所属	二級甲医院：7 名 三級乙医院：3 名	腹腔鏡導入の状況にかなりの差がある。一部の医院は基本的に手つかずの状態、ある医院は三級甲医院と同じ規模を有する。
職務	助教 1 名、講師 4 名、准教授 2 名、教授 3 名	腹腔鏡医師は若年化の傾向がある。
腔鏡手術の状況	月に 5 件以下：2 名 月に 5 件～10 件：4 名 月に 20 件以上：1 件	受講者の基礎レベルに差がある。研修のニーズはかなり多い。
手術の実績	LC+LA：4 名 LC+LA 及び結直腸腫瘍、ヘルニア：3 名	1. 未経験の受講生に対し、基本手術である LC と LA について腔鏡を講義の主要内容にした。 2. LC と LA を除く、腹腔鏡手術の延長であるヘルニア、結直腸腫瘍、胆道、腹腔鏡胃癌、肝葉切除について、基層医院の受講生に推進するのは現時点では適切ではない。 3. 受講者は虫垂の腔鏡切除及び甲状腺手術に大変関心を示した。 受講生から、一般的な病気であるが手術が複雑なケースは、大変関心があると感想が寄せられた。 これは研修プログラムが目指しているところである。
研修への要望	動物実験＋臨床手術の実践	基礎理論＋トレーニング＋実践を研修プログラムとして構成している。受講生の調査によるとほぼ全員が動物実験と臨床手術にもっと時間と労力を割いてほしいと考え



		<p>ており、基礎理論と基礎トレーニングを希望していないことが分かった。ただ、基礎研修は非常に重要であるので、今後は以下の点を考慮したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講者に基礎不足を認識させる。</li> <li>2. 興味を持たせながら基礎研修を受講してもらう。</li> <li>3. 基礎研修による成果を認識させる。</li> </ol> <p>動物実験と臨床手術は受講生の要望であるが、我々は基礎研修を徹底したい。</p>
成果（アンケートより）	動物実験、専門講座、手術デモンストラクション、機械手術トレーニング、モニター手術トレーニング	基礎トレーニングの時間が足りず、動物実験と臨床手術の比重が大きかった。受講生のニーズに沿いながら、全体的なスケジュールを調整する必要がある。
通常業務から離れて研修する期間（アンケートより）	1～2週間が妥当	基層医院が受入れ可能な限度がある。今後はこれを参考にしたい。
意見	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機械トレーニング研修を標準化してほしい</li> <li>2. より多くの手術の機会を設けてほしい</li> <li>3. より多くの手術映像資料（コピー）を提供してほしい</li> </ol>	<p>現在国内外で腹腔鏡手術の公式な基準が設定されていない。講師は自分の操作方法や自分が会得したものを受講生に教えている状況である。今後はキャリアのある指導医師を増やし、受講生の要求に応じたい。受講生による手術参加は医療安全上リスクがあるが、より多くの機会を設け、受講生の希望に応じたい。手術映像資料は著作権の問題もあるが可能な限り提供したい。</p>

今回の二週間の研修は、不足な点はあったものの、非常に実りの多いプログラムになった。この研修プログラムを提供していただいている笹川同学会及び関係者に感謝を述べたい。来年度は更に強化し、受講生のニーズに対応できるような充実したプログラムにしてきたい。

（中南大学中南大学湘雅二医院微創外科センター）

## 2014 中日笹川医学合作项目

### 腹腔镜实用技术骨干人才培训班总结

2014 年 7 月 20 日至 2014 年 8 月 2 日，中日笹川医学合作项目腹腔镜实用技术骨干人才培训班在中南大学湘雅二医院举行，经各方积极准备和精心组织，本期学习班业已结束，现将本期培训班情况予以总结，并将在 2015 中日笹川医学合作项目中进行调整：

#### 1、组织预备

项目	本次情况	2015 项目
学员召集	卫计委国际司通知召集	同 2014
会务组织	微创外科中心负责	同 2014
教具准备	开班前一周前清点调试完善各科目教具	同 2014
教材准备	开班前一周内清点完善	依托教具，进一步完善影音文件及书面课件
人员准备	提前 1 个月安排好课表，任课教师提前备课准备	试行预讲制度，由微创外科中心组织，根据需要，必要时请外单位专家参与授课
经验总结：如果情况允许，在今后的同模式培训中，能在培训开始前 2 个月和学员取得联系，根据调查反馈调整办班内容及周期，于开班前 1 个月根据学员调查反馈情况确定具体培训方案，由于针对性强，培训效果会更好。		

#### 2、办班内容

项目	本次情况	2015 项目
理论授课	按照“腹腔镜实用技术”的题目进行胃肠、肝胆、乳甲腔镜的分别授课，加入国际交流内容，效果良好	继续增加互动内容，对于临床难点进行深入分析沟通
机械模拟	一天半时间进行机械模拟	本项目将继续存在并强化
电子模拟	1 天时间进行“手把手”电子手术模拟	本项目和机械模拟同步进行
动物手术	在带教老师指导下完成腹腔镜下胆囊切除、脾脏切除、胃空吻合、直肠切除吻合、肝叶切除等手术，充分利用了手术资源，学员反馈良好，成为本培训班特色	争取进一步完善动物手术教材
手术观摩	四天半时间进行手术观摩、互动，有学员上台参与手术，效果良好	加强术中和术者互动交流，提升解说水准
手术实践	由于学员水平参差，仅有部分学员上台	着眼手术安全，根据学员水平安排，争取所有学员均有参加手术实践机会



经验总结	为保证办班质量，争取在开班前 2 个月由承办方和学员进行 <b>直接交流</b> ，了解学员的腹腔镜基础和层次，培训的目的，根据培训层次安排培训内容，调整培训结构和计划，并在互动部分中进行个性化安排。
------	--

### 3、宣传随访

项目	本次情况	分析
办班中	授课中、手术观摩过程中及发放宣传资料、介绍推广微创的前沿进展	学员更加关注实用性强的复杂腹腔镜手术和开放手术的处理，对前沿只是要求一般性了解
办班后	随访并建立长期联系	建立学员微信群，长期沟通，对于常见病和复杂病的处置起到指导作用
长期宣传	/	利用各种媒介，把培训作为扩大微创影响、构建学术平台的窗口和机会，利用各种形式加强交流，把培训班办成基层医院医生在培训和临床答疑方面有效途径。
经验总结	办好每一期培训班，做好笹川培训的品牌效应，把最实用的技术最大程度的送到基层骨干医生手上，才是真正为群众服务。	

### 4、合作模式

项目	本次情况	分析
本次伙伴	笹川同学会，负责学员组织、会务费用 微创中心负责会务安排	沿袭 2013 办班模式未作改变，在今后办班模式上尽可能把程序流程化，减少遗漏，降低成本，提高效率。
经验总结	流程化是减少成本，提高效率，保证质量的最好办法，争取明年办班能够流程化运作	

### 5、拓展空间

项目	本次情况	经验
本次情况	基础培训和临床学习兼顾	学员对于基础培训出现兴趣疲劳，但是基础培训是培训项目的重中之重，今后培训工作应该在增加基础培训的趣味性和新颖性上下功夫，降低这种疲劳会取得更好效果。临床学习不赘述。
经验总结	在培训过程中发现，如何迎合个体化培训要求仍是我们很难做到的，在这种小规模化的培训过程中，仍然存在较大的个体差异，尝试在下期培训班中专门安排个体化培训时间，可能在这方面的探索，对于培训本身具有更大拓展空间。	

### 6、学员反馈

	本教学反馈表发放 10 份，回收 7 份，其他为询问反馈	
项目	反馈情况	分析

来源	7 名来自二甲医院，3 名来自三乙医院	腹腔镜开展情况差别很大，有部分医院基本上处于空白状态，有些医院接近三级甲等医院规模
职称	医师 1，主治医师 4，副主任医师 2，主任医师 3	腔镜医师有年轻化趋势
腔镜手术开展情况	5 台/月以下 2, ,5-10 台/月 4, 20 台以上/月 1	学员培训基础差别很大，培训有巨大市场
已开展手术	LC+LA 4, LC+LA 以及结直肠肿瘤、疝 3	<p>1 LC 和 LA 是腔镜的基本手术，对于未开展的学员是主要的学习内容；</p> <p>2 除了 LC 和 LA 以外，腹腔镜手术的进一步延伸为疝气、结直肠肿瘤、胆道，腹腔镜胃癌、肝叶切除暂不适宜基层医院推广；</p> <p>3 学员对于复杂阑尾的腔镜切除以及腔镜甲状腺手术表现出浓厚兴趣，在对于本培训层次的医生而言，处理常见病常见手术的复杂情况可能更加吸引眼球，也是本层次培训项目的方向。</p>
培训需求	动物实验+临床手术实践	我们的模式为理论+模拟+实践，而学员的调查反馈信息几乎全部希望在动物实验和临床手术实践上多投入时间和精力。在沟通过程中，我们发现基础理论和基础模拟并不理想，所以我们认为我们预定的培训模式是必须的，但应该在今后的培训工作中做到以下几点：1 让学员认识到基础的不足；2 让学员有足够的兴趣和耐心完成基础培训；3 让学员在培训中认为通过基础培训有明显收获。动物实验和临床手术实践是学员较为满意的部分，我们仍需努力加强，争取更加规范。
收获（询问）	动物模拟，专题讲座，手术演示明显；机械模拟，电子模拟次之	说明我们在基础模拟上投入力量不够，在动物模拟和临床手术实践方面安排较多，尽管迎合了学员需求，但是仍需更加全面系统的调整培训流程。
脱产培训周期（询问）	1-2 周为宜	这个培训时间是基层医院可以接受的限度，在今后同层次微创培训中，可参考此周期。
建议	1 机械模拟培训内容倾向于规范化动作；	目前国内外尚没有腔镜手术的公认标准化操作规范，培训老师只能把



	<p>2 争取更多上手术台机会； 3 提供更多手术影像资料拷贝</p>	<p>自己的操作心得和学员共享，今后培训将在基础培训中增加高年资师资投入以满足学员要求；短期培训提供学员上台机会对于医疗安全存在一定隐患，我们努力争取更多机会满足学员要求；手术影像资料涉及知识产权，我们尽最大可能共享。</p>
--	---	---

综上，经过两期的培训工作，培训项目已经较为成熟，但仍然存在诸多不足之处，我们感谢对此培训项目提供支持的笹川同学会和全体工作人员，在新年度的培训工作中不断加强薄弱环节，调整培训工作思路，尽可能满足学员要求，争取在 2015 年度培训项目中表现的更加成熟。

（中南大学湘雅二医院微创外科中心）